

春ニンジン

山武経済センター 営農指導担当者 富谷 公博



農業

テクニカルダイアリー



サトイモ

営農部営農振興課 営農指導員 松本 有希子



写真③
ヒョウタンゾウムシの成虫
(体長約1cm)



写真④
調査の様子



写真⑤
土中に埋設したトラップ(左下)
と捕獲数を示した看板

本年、春ニンジンに被害を及ぼすヒョウタンゾウムシの発生状況について調査を行いました。その結果をご報告します。

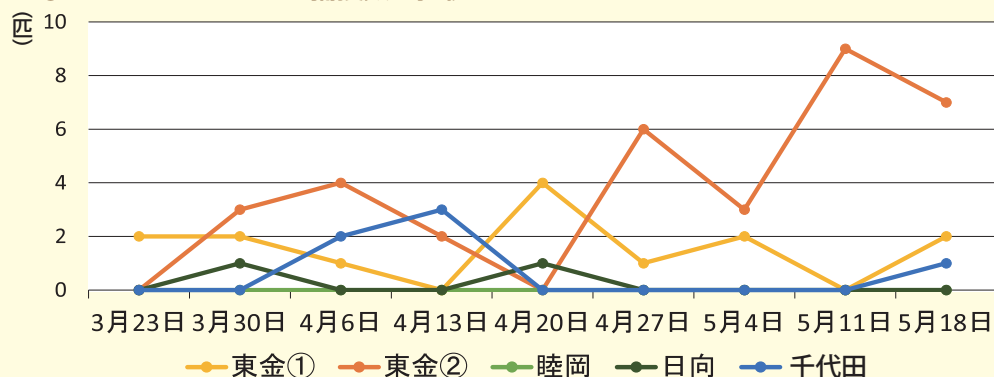
●調査内容

【調査地区】東金(2カ所)・睦岡・日向・千代田の4地区計5カ所

【調査方法】ヒョウタンゾウムシの成虫(写真③)は、歩いて圃場に侵入します。その性質を利用して、成虫を捕獲するトラップ(わな)を1圃場につき4カ所設置しました。トラップは、2リットルペットボトルを切り抜いた手作りのものです。その中に水と中性洗剤を適量混ぜ、畑に埋めて、週1回、捕獲数を調査しました(写真④⑤)。

ヒョウタンゾウムシの発生状況の調査

図① ヒョウタンゾウムシ捕獲数の推移(匹)



調査結果

結果は図①のとおりです。3月下旬から調査を開始し、1回目の調査から成虫が捕獲されました。気温の上昇とともに捕獲数は増加傾向にあり、5月の大型連休以降に、捕獲数はピークに達しました。

露地トンネル栽培の被覆資材を除去する頃、調査圃場の生産者に薬剤散布を呼び掛けたところ、薬剤散布以降、捕獲数が減少しました。露地トンネル栽培においては、被覆資材を除去する頃(4月中旬～下旬)に、成虫を対象に薬剤散布することが効果的です(例:コテツフロアブル、2000倍、前日まで、2回以内)。

被害が大きい圃場では、土中の成虫・幼虫を対象に灌水処理を併せて行いましょう(例:ス



写真②
サトイモの疫病②
(葉柄の病斑)

※写真提供:千葉県農林総合研究センター



写真①
サトイモの疫病①
(葉の輪紋病斑)

表① サトイモの種芋消毒剤

薬剤名	対象病害	希釈倍率または使用量	処理方法
トップジンM水和剤	黒斑病	200～500倍	20～30分間種芋浸漬
ベンレートT水和剤20	黒斑病	20倍 ※1	1分間種芋浸漬
		種芋重量の0.4～0.5% ※2	種芋粉衣

※1・・・水10リットルに対して薬剤500グラム

※2・・・種芋100キログラムに対して薬剤400～500グラム

表② サトイモの疫病に適用のある殺菌剤

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数	予防効果	治療効果
ジーファイン水和剤	1000倍	収穫前日まで	—	○	—
アミスター 20フロアブル	2000倍	収穫14日前まで	3回以内	○	○

付いた葉などから病原菌が侵入し、疫病が発生しやすい年でした。生育早期にまん延すると、葉が傷んで芋の肥大に影響を及ぼし、減収となることがあります。発生させないために対策を講じましょう。

●種芋選抜・定植前まで

病原菌は芋に付着している

土から検出されています。種芋消毒の前に付着している土を洗い落とし、同時に、腐敗した芋などは取り除き、健全な芋を選抜しましょう。種芋の洗浄には、ケミクロンG5万倍液(水500リットルに対して薬剤10g)を使用します。乾かした後、表①の薬剤で種子消毒を

行います。疫病に適用のある種子消毒剤はありませんが、疫病以外の病害を防ぐことにも繋がります。

●定植後・収穫前まで

疫病が発生してからの防除では効果が低く、葉が繁茂してからでは薬剤を散布しにくいので、本葉4枚ごろから予防散布を中心に防除を開始します(表②参照)。発病を確認した場合または強風降雨が続いた場合には、アミスター20フロアブルを散布します。

サトイモの葉は薬剤が付着しにくいので、薬剤散布時には必ず、展着剤(アプローチビーなど)を使用しましょう。

●収穫後

サトイモ疫病の一番の発生源は、前年の収穫残渣(芋、葉、茎)です。翌年、放置された芋が生育すると、そこから病原菌が広がっていきます。疫病が発生した圃場では、残渣をそのまま放置せず、ロータリーで耕うんし、定植までにきちんと破壊・分解させます。疫病が発生した圃場での作付けは避けましょう。

そのままだと、ロータリーで耕うんし、定植までにきちんと破壊・分解させます。疫病が発生した圃場での作付けは避けましょう。

4月の分析経過について

合計2点	
多成分一斉分析	ミツバ 1点
残留農薬分析点数	春ブロッコリー 1点
※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。	
土壌診断点数 合計10点	

「営農情報メール」配信中!

作柄情報、病害虫対策、青果物概況、イベント案内など、営農に役立つ最新情報をお届けします。

↓登録はこちら(登録無料)



JA山武郡市の組合員ならどなたでも登録できます。

今回の調査では、捕獲数を毎週、営農情報メールでお知らせしました。このほかに、有意義な情報を配信しておりますので、ぜひ登録ください。

●生産者への周知方法

今回の調査では、捕獲数を毎週、営農情報メールでお知らせしました。このほかに、有意義な情報を配信しておりますので、ぜひ登録ください。